

名東区の在宅医療は？

医療関係者が連携「オール名東」で

名東区では平成29年

に在宅医療を受け在宅で人生の最期を迎えた人が、区内の死亡者数の30%を超えた（老人ホームやサービス付き高齢者住宅なども含む）。同年の区民アンケートで「自宅でも最期を迎えたい」と思う人は37%で、区民の希望に徐々に近づいていると考えられる。

同年の統計で、名古屋市全体では25・4%、全国平均では20・7%の在宅死亡率。名東区が30%と高いのは、医療介護従事者が連携を取り、在宅療養に先進的に取り組んで

きたからである。

「在宅医療」は、大まかに①「入院治療から在宅へ」と②「外来通院から在宅へ」の2種類がある。①では訪問診療専門の医師が自宅で点滴や緩和ケアなど入院治療と同等の医療を行う。②では病院に通えなくなった人の家に、かかりつけ医が定期的に診察に行く形である。どちらも看護師やリハビリなども加わりチーム医療が展開される。

自宅で介護をする場合、介護者が精神的に孤立しがちだが、チームで介護者をバックア

名東区はち丸在宅在宅支援センターは本郷駅徒歩2分



ップすることもできるようになった。

最期を迎える際の「みどり」では、かかりつけ医が不在の時にサポート医が対応するなどのシステムが確立されてきた。その際「最期まで在宅」か「場合によって入院」かは、患者本人の意思を尊重しながら、家族と医療従事者が相談して決めることができ

る。

介護保険制度と「在宅医療」は動き出して20年程度だが、多くの事例が貴重な経験として蓄積されてきた。自宅で十分な医療を受けるためには、患者に関わる医療従事者と介護従事者との連携が大切ということが分かってきた。

区内では平成26年ごろから、在宅医療の普及について医療と介護の諸機関が連携しながら取り組むようになってきた。病院ごとに開催してきた勉強会を、皆で協力して取り組もうという姿勢にかわってきたのである。

前・名東区医師会長

の伊藤克昭氏が、災害医療対策や在宅医療対策に積極的に取り組み始め、現会長の三浦義孝氏に継承されている。大規模災害を想定した医療救護所設置訓練など、全市の見ても先進的な取り組みを継続的に行ってきた。

加えて、地域の病院や名東保健福祉センターとも協力して地域包括ケアシステムを考える「多職種連携研修会」を年に5回開催し、横のつながりや連携をより密にしてきた。

区内医療介護従事者が、顔を突き合わせて話し合い、活発に情報交換を行うことで区内の在宅医療がより充実し、高い在宅死亡率となった。この「オール名東」としての先進的な取り組みは今年6月、「日本在宅医療連合学会」のシンポジウムで全国の医療関係者に向けて発表された。

「最期まで住み慣れた家で過ごしたい。在宅で医療を受けたい」と考

宅で医療を受けたい時

を受けている。名古屋市の委託事業として名古屋市医師会が運営する同センターは2人の職員が平日（月～金）9時から17時まで常駐

しており、対面だけでなく電話相談なども行っている。住所は本郷2の14サンライズⅡ（本郷駅徒歩3分）760・0874。

みんなを支える在宅療養
～住み慣れた我が家で自分らしく生きるために～

名古屋市
一般社団法人名古屋医師会

住み慣れた名東区で
いつまでも笑顔で暮らすために

名東区にお住いのみなさま、介護や認知症で、困ることやお困りのことありませんか？
また、近所にお出掛けして、趣味や友人を増やしてみませんか？
名東区には、高齢者の生活を支える様々な事業があります。
めいとう課がご紹介します。

その1 在宅での医療

最期まで住み慣れた我が家で過ごしたい。在宅で、医療を受けたいとき、どこに相談したらいいの？

まずは、「かかりつけ医、かかりつけ薬剤師、かかりつけ看護師」に相談しましょう。その他にも、下記の相談先がありますよ。

相談窓口

- 名東区はち丸在宅支援センター
運営／一般社団法人名古屋医師会
在宅医療や介護連携を推進する役割を担っています。
- 所在地：名東区本郷2-14サンライズⅡ 1階
- 電 話：760-0874

市医師会発行のパンフレット④ 市発行の名東区版のガイドブック⑤
どちらも区役所福祉課や、はち丸在宅支援センターで手にできる

「最期まで住み慣れた家で過ごしたい。在宅で医療を受けたい」と考